



大学生によるつながる通信

政策提言

インターン活動の集大成として、豊中市へ政策提言を行いました！

介護現場にロボットを！（米田）

近年、少子高齢化が加速度的に進み、市の高齢者人口は現在、10万人となっています（全体の1/4）。そのため、介護施設（老人ホームなど）の労働力不足が課題となっています。一方で、介護士は高度に専門的な側面を抱えていることに加え、肉体的にも精神的にも負担が大きい職業です。介護現場の労働力不足を軽減しつつ、労働環境を改善することが必要です。

そこで、私は上記2点の課題を解決する手段として、【介護施設へのロボット導入の推進】を提案します。これは人に代わって介護を行うロボットを導入することで、介護士の負担を軽減することを目指したものです。労働力不足と高齢者の増加が深刻化する中、日進月歩の先端技術であるロボットを積極的に活用することが、介護事業の抱える諸問題の解決の糸口になるのではと考えています。

行政組織に免疫マップを！（大石）

議員インターンシップに参加して、行政に関わっている人は、市をよくしていこうという強い意思があり、一つ一つの施策に熱意を持っていることを知りました。一方で、いくつかの施策に関しては、行政の動きが遅いと感じました。

その問題は、職員の意志の欠如ではなく、組織全体の有益なコミュニケーションの不足だと考え、【免疫マップ】という組織マネジメントに関する一つの理論を提案しました。まず、改善すべき目標を決め、どのような要因がそれを妨げているのか特定します。次に、実際の活動を通してその要因が真かどうかを検証し、これまでの問題に対する認識を変えていきます。免疫マップは、問題を取り扱うときに、自分を含めて組織にいる人の考えていることを分かりやすく表し、周りとは有益なコミュニケーションをとりたいときに使うことができます。経費をほとんど使うことなく実行できる点も魅力的です。

阪大サークルの地域交流を活発に！（多田）

私は【大阪大学のクラブ・サークルと豊中市の小中学校が関わる機会の提供】を提案します。

具体的には①指導型②開催・発表型の2種類です。まず、①指導型では、大学のクラブ・サークルが中学校の部活動の指導をします。年が近く、その方面の経験のある大学生が教えてくれば、生徒はより楽しみ、上達するでしょう。

次に②開催・発表型では、大学のクラブ・サークルが小中学生向けに、例えば合唱や演劇の上演、星空観察会などを開催・発表します。子ども達はそれらを学びの場とすることができ、また大学生は一つの発表の場とすることで活動を活発化できます。

市には二者の間に入って、大学のクラブ・サークルと小中学校とのマッチングや紹介、広報などのサポートをしてもらいます。阪大には公認団体だけでもおよそ130のクラブ・サークルがあります。せっかく豊中市に大阪大学があるのでそのクラブ・サークルと市内の小中学校が関わる場を作ることは、とても有意義だと思います。

